

日本気象学会

昭和57年春季大会

会期：昭和57年5月26日（水），27日（木），28日（金）

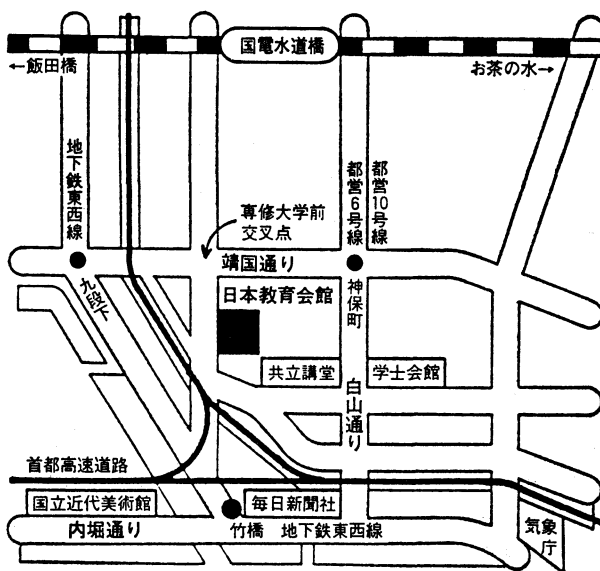
会場：日本教育会館（東京都千代田区一ツ橋2-6-2）

Tel. 会館事務局直通 03-230-2831~4

目次

大会行事予定表	254
総会次第	254
研究発表内容一覧	255
研究発表題目	256~262

会場案内図



地下鉄東西線竹橋駅より徒歩5分
 都営6号線，都営10号線神保町駅より徒歩5分
 地下鉄東西線九段下駅より徒歩6分
 国電水道橋駅より徒歩10分
 ☆100周年記念パーティ（5月25日（火），夜）会場は
 日本教育会館2階（喜山）です。

大会行事予定表

1. 会場：日本教育会館 8F
東京都千代田区一ツ橋 2-6-2
第1会場：801, 802 号室
第2会場：803 号室
第3会場：804 号室
2. 会期：5月26日（水）、27日（木）、28日（金）
3. 行事

行事		
大会（研究発表） 〃	（第1, 第2, 第3会場）	5月26日（水）09:00~12:30 13:30~17:00
大会（研究発表） 学会賞、藤原賞記念講演会 総会 シンポジウム	（第1, 第2, 第3会場） （第1~第3会場） （ 〃 ） （ 〃 ）	5月27日（木）09:00~12:00 13:00 ~15:00 15:00~17:00
大会（研究発表） 〃	（第1, 第2, 第3会場）	5月28日（金）09:00~12:30 13:30~17:00

大会委員長 未定

注）従来大会2日目に開催した懇親会は100周年記念パーティ（5月25日夜）に含まれます。

総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 山本賞授与
7. 気象学会賞受賞記念講演
8. 藤原賞受賞記念講演
9. 昭和56年度事業経過報告
10. 〃 会計決算報告
11. 〃 会計監査報告
12. 昭和57年度事業計画案・予算案の審議
13. その他

昭和 57 年 春 季 大 会

(): 講演番号, — — : 座長

	第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
5 月 26 日 (水)	09:00~ 12:30 大気大循環・総観気象 (101~114) —金光 正郎—	局地循環 (201~213) —荒川 正一—	放射 (301~312) —宮内 正厚—
	13:30~ 17:00 力学 (115~122) —松田 佳久— 熱帯気象・台風 (123~129) —安成 哲三—	局地循環 (214~219) —白崎 航— 大気汚染 (220~228) —吉川 友章—	雲物理 (313~326) —田中 豊頭—
5 月 27 日 (木)	09:00~ 12:00 気候 (130~142) —野本 真—	境界層 (229~239) —文字 信貴—	測器 (327~338) —池田 学—
	13:00~ 15:00 15:00~ 17:00 記念講演・総会 シンポジウム		
5 月 28 日 (金)	09:00~ 12:30 中小規模現象 (143~156) —山岸米二郎—	境界層 (240~253) —蒲生 稔—	エアロゾル (339~350) —中谷 茂—
	13:30~ 17:00 中小規模現象 (157~170) —吉住 禎夫—	境界層 (254~261) —安達 隆史— 応用気象 (262~267) —伊藤 久雄—	大気電気 (351~355) —三崎 方郎— 大気化学 (356~365) —伏見 克彦—

注) 大会参加費 会員 500 円, 学生会員 300 円, 一般 1,000 円. 参加費の払込み方法については P. 264 を参照して下さい.

シンポジウム

気象衛星資料の利用—その現状と展望—

1. 日時 大会第 2 日 (5 月 27 日 (木))
2. 会場 第 1 ~ 第 3 会場
3. 座長 伊藤 宏 (気象衛星センター)
4. 話題提供者
田中正之 (東北大学): 放射観測とリモートセンシング
立平良三 (気象庁予報部): 静止気象衛星の予報業務への利用
岡林俊雄 (気象大学校): 低気圧, 大雨 (雪) などの解析への利用

講演発表者へのお願い

1. スライドのマウントに番号をつけること.
2. スライドの上下を揃え, 分かるようにすること.
3. 講演時間は 12 分しかありませんので, スライドの標準枚数は 6 ~ 8 枚です.
4. 12 枚を越えるときは枚数を減らしていただくことがあります.
5. 持ち時間を超過したときは中止していただくことがあります.

研究発表題目

大会第1日(5月26日)09時00分~12時30分

第1会場 大気大循環・総観気象

座長 金光正郎

101. 野田 彰・時岡達志(気研・予報):大気大循環のエントロピー生成率(Ⅲ)収束解の性質
102. 伊藤久徳(和歌山大・教育):プラネタリー波の振幅増大についての解析(その3)一波数2のメカニズムの考察一
103. 楠 昌司(東大・理):プラネタリー波に対する地形の力学的効果
104. 時岡達志・鬼頭昭雄(気研・予報):全球5層大気大循環モデル(Ⅲ)
105. 鬼頭昭雄・時岡達志(気研・予報):MRI-GCM-Iによる1月のシミュレーション
106. 谷貝 勇・時岡達志・鬼頭昭雄(気研・予報):全球12層大気大循環モデルによる1月のシミュレーション一成層圏を含まないモデルとの比較一
107. 増田耕一(東大・理):北半球大気中の非断熱加熱(2)一冬の熱源分布とその年々の変動一
108. 住 明正(気象庁・電計):予報・解析サイクルでの Rossby mode に対するデータの影響(第1部)
109. 青木忠生(気象衛星センター):最適推定法による客観解析. I. その導出と既存の方法との関係
110. 青木忠生・中島 忍・加藤一靖(気象衛星センター):最適推定法による客観解析. II. 気象衛星(NOAA-6)から得られた海面水温への応用
111. 大野久雄(気象庁・電計):北半球10層プリミティブモデルを使用した MOS による 圏界面高度予報
112. 佐々木洋・三瓶次郎(気大)・加藤内蔵進(東大・海洋研):1981年1月の本州南方海域における熱・水蒸気収支
113. 川口貞男(極地研):南極みずほ基地における高層気象観測
114. 大河内芳雄(気象庁・電計):台風3次元力学モデルによる進路予報について

第2会場 局地循環

座長 荒川正一

201. 大河内康正(八代高専)・和方吉信(九大・理):

九州北部の海陸風(2報)

202. 佐橋 謙(岡山大・教育):海陸風吹走時の乱れの特異性(序報)
203. 吉川友章・佐藤純次・荒川正一・村山信彦(気研・応用):ドップラーソーダによる気流と拡散パラメータの測定
204. 岡本眞一(産業公害防止協会)・大石大和(日本鋼管株式会社)・塩沢清茂(早稲田大):栃木地区における山谷風の観測
205. 枝川尚資(京大・防災研):琵琶湖の湖陸風(3)
206. 渡辺 明(福島大):猪苗代湖における上層風について
207. 小出 孝・荒川正一・木村富士男・村山信彦(気研・応用):瀬戸内の局地循環内の low level jet について
208. 木村富士男・荒川正一(気研・応用):関東地方の下層ジェットの数値シミュレーション
209. 白崎航一(気大)・木村富士男・荒川正一(気研・応用):乱流輸送過程の局地循環に及ぼす影響について(Ⅱ)
210. 坂東 聡・大西外史(防衛大):一般風を考えた三次元モデルによる海陸風の数値実験
211. 島貫 陸・鈴山 宏(東京学芸大):50m格子における粗度の取扱いと海陸風シミュレーションへの応用
212. 米谷恒春(国立防災センター):ヒートアイランドによる対流活動の活発化一理論的検討一
213. 平松 親・採野長治(北大・環境研):札幌市の大気環境Ⅳ一夏季のヒートアイランド一

第3会場 放射

座長 宮内正厚

301. 浅野正二・村井潔三(気研・高物)山内豊太郎(気象庁・測候):気象庁における Linke 混濁係数の算出法改正について
302. 中川清隆(金沢大・教育):完全快晴時の大気のみかけの射出率を地上の水蒸気圧と炭酸ガス濃度から推定する公式の理論的誘導
303. 内山明博(東北大・理):中間圏における赤外放射の伝達(Ⅳ) heating rate (夜間)

304. 内山明博(東北大・理):中間圏における赤外放射の伝達(V) heating rate(日中)
305. 浅野正二(気研・高物):光学的に異方性な散乱媒質(雲)における放射伝達
306. 田中正之・中島映至・石川重年(東北大・理):気象衛星「ひまわり」の写真を用いた雲解析
307. 村井潔三・小林正治・関根正幸・浅野正二(気研・高物):紫外域日射の分光測定
308. 一木明紀(高層気台):地表で測定される紫外線量に対する,有効雲量,水平視程,オゾン全量の影響
309. 山内 恭(極地研):波長別直達日射計による大気混濁度推定の問題—南極みずほ基地における観測例—
310. 嘉納宗靖・八尾 孝・宮内正厚(気研・高物):窓領域赤外放射の変動
311. 石川信敬・小林俊一(北大・低温研):南極みずほ基地における長波長放射特性(POLEX-South)
312. 会田 勝・谷治正孝・畠山正恒(横浜国大)坪田幸政(慶応高)高橋佳昭(アジア航測 K.K.):MSS 観測による都市・周辺域の地表面放射特性

大会第1日(5月26日)13時30分~17時00分

第1会場 力学

座長 松田 佳久

115. 山中大学(宇宙研)・田中 浩(名大・水圏研):中層大気の波動と乱流(第4報)—慣性内部重力波の碎波による成層圏乱流層の形成—
116. 山中大学(宇宙研):中層大気の波動と乱流(第5報)— β 効果による臨界高度のシフト
117. 幸野淳一(九大・理):非正常大振幅プラネタリ—波による物質輸送と residual 平均流
118. 高橋正明(九大・理):半年振動の数値モデル
119. 三村和男(京大・理):Rossby-Gravity Wave の南北伝播特性
120. 野田 彰(気研・予報):座標変換論から見たラグランジュ的平均理論
121. 大野久雄・三浦信男(気象庁・電計):ジェット気流南側での鉛直構造方程式の解
122. 新野 宏(気研・物理)・三沢信彦(東大・海洋研):回転流体中の水平シア流の安定性(その3) —室内実験—

熱帯気象・台風

座長 安成 哲三

123. 山岬正紀(気研・台風):台風モデルにおける持続する降雨域の構造
124. 小寺邦彦(気研・高物)・村上勝人(気研・台風):積雲強度指数より見た大気の循環
125. 村上勝人(気研・台風):夏のモンスーン期における大規模積雲活動の長周期変動
126. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報):FGGE III-B

データにみられる低緯度対流圏上部の東進波

127. 田中 実(筑波大・地球科学):夏季モンスーンの中休みについて
128. 石島 英(琉大):島上観測データによる台風地上風速場の推測
129. 饒村 曜(気象庁・予報):台風の発達・衰弱と海水温

第2会場 局地循環

座長 白崎 航一

214. 田中正昭(京大・防災研):京都盆地の局地現象—盆地中央部の早朝の風と気温—
215. 榊原保志(足立七中):草加松原団地の気候環境
216. 小林博和・西宮 昌(電力中研):地表風系の客観予測(I)—主成分分析と自己回帰式の結合モデル—
217. 石田廣史(神船大):日本周辺域における風の吹続時間特性
218. 森 征洋(香川大・教育):日本各地の風の日変化の気候学的特性について(Ⅲ)
219. 後藤常男(緯度観測所):位置天文観測と境界層の構造(Ⅳ)

大気汚染

座長 吉川 友章

220. 伊藤昭三・溝尻純枝(大阪府大・工)・河野 仁(大阪市環境保健局):建物密集地域における道路からの物質の拡散
221. 伊藤政志(東京都公害研)・広尾 純(関東学院大):角度変量の統計による風向データの解析

222. 鶴田治雄(横浜市・公害研):沿岸地域での汚染物質の輸送過程と変質過程(I)
223. 鶴田治雄(横浜市・公害研):沿岸地域での光化学オキシダント濃度の垂直分布の日変化(I)
224. 木村富士男・戸矢時義・小出 孝・村山信彦(気研・応用):瀬戸内の大気汚染と気象の航空機観測
225. 小林博和・宮川 実・西宮 昌・赤井幸夫・藤田慎一(電力中研):レーザ・レーダを用いた汚染物質の観測(II)
226. 佐藤純次・矢野 直・小林隆久・小出 孝(気研・応用)エア・トレーサーの海陸風による長時間輸送
227. 石崎健二(北大・工):煙の拡散—煙塊のゆらぎ運動の評価
228. 安達隆史・筑紫文夫・安立良平(気象協会)・花房龍男(気研・物理):微風時大気拡散実験

第3会場 雲物理

座長 田中豊顕

313. 大谷 健(名大・水圏研):大気中のエアロゾル粒子の凝結核としての性質
314. 八木鶴平・上田 博(国立防災センター):北海道釧路市における海霧の観測, I
315. 上田 博・八木鶴平(国立防災センター):北海道釧路市における海霧の観測, II
316. 久芳奈遠美・武田喬男(名大・水圏研):雲粒径分布の特性と各因子との関係(数値実験)
317. 椎野純一(気研・台風):雨滴の成長を取り扱った積雲の数値実験(3)—初期雲粒が shallow, deep 両積雲の降水発達に及ぼす影響度について—
318. 桜井兼市(北教大・旭川):氷霧の霧粒及び氷晶中の固体粒子について(I)
319. 田中豊顕(気研・物理):雲粒に含まれる氷晶核—雲の氷晶化機構を調べる一つの試み—
320. 小池哲也・岡崎仁美・権田武彦(東理大・理工):低温で成長する単結晶氷晶の成長機構
321. 小池哲也・権田武彦(東理大・理工):低温で成長する単結晶氷晶の形態安定性
322. 佐藤 昇・菊地勝弘(北大・理):微小砲弾集合の生成
323. 上田 博(国立防災センター)・菊地勝弘(北大・理)C軸のなす角度 90° を含む砲弾集合の立体的な配置について
324. 岩井邦中(信州大・教):板状の雪の結晶の3次元的な微細構造その3
325. 藤吉康志(北大・低温研): -25°C 以下の地上気温で観測された雪片について(POLEX-North)
326. 松尾敬世・佐粧純男(気研・物理):降水粒子の粒径・落下速度分布の融解に伴う高度変化

大会第2日(5月27日)09時00分~12時00分

第1会場 気候

座長 野本真一

130. 飯田茂隆(竹中技研):名古屋・岐阜地方の最低気温の予測について
131. 中西 朗(新潟・東青山小):瓢湖の白鳥過去最高羽数とハバロフスクの寒気
132. 井上良紀・鶴田 誠(阪大・基礎工):日射量変化による大陸氷床の非線形変動と氷期の周期
133. 石丸雄吉(天気暦象研究所):大気と潮汐の長期調和運動(長期気象予測の原理その1) On the Long-rang harmonic motion of the Atmosphere and Tide.
134. 石丸雄吉(天気暦象研究所):メトン循環と太陽黒点の長年変化(長期気象予測の原理その2)
- On the Long years Relation between the Me tonic cycle and Sun spot.
135. 一木明紀(高層気台):館野における最近60年間の気温変動と太陽黒点数などによる数年先の気温推定の可能性について
136. 須田滝雄(岐阜大・農):気候変動の原因としての太陽活動, 火山噴火および雪氷面積(承前)
137. 北出寿江(気研・応用):降水量の経年変化と月別変化
138. 千葉 長・野本真一・矢島栄三(気研・予報):1月の月平均気温, 降水量と海面気圧との相関
139. 吉野正敏・解思梅(筑波大・地球科学):東アジアの気候異常と北太平洋の水温分布
140. 田宮兵衛(気研・予報):成層圏突然昇温時の500

mb 高度場の変動

141. 那須田宏 (京大・理): 「ひまわり」 VISSR データによる雲型分類の試み
142. 青木 孝 (気研・予報): 台風の区域別出現度数の経年変化

第2会場 境界層

座長 文字 信 貴

229. 近藤純正・山沢弘実 (東北大・理): 積雪面熱収支の基礎的研究 (2)
230. 寄崎哲弘・小林 守 (筑波大・環境科学): 接地層における正味放射フラックス, 顕熱フラックスの収束・発散の観測
231. 安田延壽 (東北大・理)・戸矢時義 (気研・応用)・高平 進 (東北大・理): 裸地面からの蒸発—水蒸気の鉛直輸送について—
232. 林 陽生 (筑波大・地球科学): 植物群落上の気流の乱れと植被の揺れ
233. 米谷俊彦・瀬尾琢郎 (岡山大・農生研): 植物群落上の乱流特性について (14)
234. 水野建樹・横山長之・蒲生 稔・山本 晋 (公資研) 安定層中の乱流構造 (3)
235. 横山長之・林 正康・水野建樹・山本 晋 (公資研): 晴夜安定層中の乱流と波動の測定 (4)
236. 山本 晋・蒲生 稔・横山長之 (公資研): 混合層上部および上層安定層の乱流特性について (その4)
237. 山下喜弘・伴野 登・内藤恵吉 (気象研・衛星): 接地逆転層内の内部重力波の伝搬特性
238. 藤田敏夫・本多庸浩 (気研・予報)・花房龍男・藤谷徳之助 (気研・物理): 安定気層中で観測される間欠的乱流について
239. 近藤純正・萩野谷成徳 (東北大・理): 弱安定成層内における上向き顕熱輸送

第3会場 測器

座長 池田 学

327. 松浦和夫 (気研・衛星): レーダ観測のプログラム化
328. 穂田 巖・岡田芳隆・高橋克巳・田端 功・内藤恵吉 (気研・衛星): ドップラーソーダー観測と気象条件
329. 塚本 修・根井 充 (京大・防災研): 回転式風速計の動特性について
330. 菊地時夫・杉本幸広 (高知大・理): マイコン利用の電接風速計用記録計
331. 内藤玄一・渡部 勲 (国立防災センター): マイクロ波散乱計の航空機搭載実験 (II)
332. 加藤一靖・浜田忠昭 (気象衛星センター): ひまわりの風計算における客観的雲指定法の開発—その1. ヒストグラム解析法—
333. 浜田忠昭 (気象衛星センター): ひまわりの計算システムにおける客観的雲指定法の開発—その2. 処理試験結果—
334. 井上豊志郎 (気研・台風): VAS による海面水温算定について
335. 中島 忍・青木忠生・加藤一靖 (気象衛星センター): TIROS-N データ処理システムから得られる晴天海域の鉛直温度, 可降水量のゾンデデータとの比較
336. 田中信也・芳野起夫 (電通大)・山内 恭・川口貞男 (極地研)HIRS/2 を用いた南極大気垂直温度分布の測定
337. 松井哲司 (岡山大・工)・大滝英治 (岡山大・教養): 赤外線炭酸ガス・水蒸気変動計の試作とその野外テストの結果について (1)—光学系と電気系の設計—
338. 大滝英治 (岡山大・教養)・松井哲司 (岡山大・工): 赤外線炭酸ガス・水蒸気変動計の試作とその野外テストの結果について (2)—野外テスト観測の結果—

大会第3日 (5月28日) 09時00分~12時30分

第1会場 中小規模現象

座長 山岸 米二郎

143. 二宮洗三 (気象庁・電計): 寒気吹出サイクロニック・プランチ (日本海) の気団変質 (I) 序報

144. 黒坂裕之 (筑波大・院): 日本海南部の雲バンドと海水温分布との対応
145. 元木敏博 (気象衛星センター)・里見 穂 (気象庁・衛星): GMS データから求めた雲移動ベク

トルによる季節風の解析 (第2報)

146. 遠藤辰雄 (北大・低温研)・穂積邦彦 (斜里高校)・元木敏博 (気象衛星センター): GMS による長時間連続観測から求めた季節風下の日本海の雲のステレオ解析
147. 八木正允・内山良子 (気研・予報): 降雪におよぼす地形の影響
148. 八木正允 (気研・予報): トランスパース・モードの雪雲の不安定理論 (I)
149. 平沢正信 (気象庁・予報): 寒候期季節風型降水予報システム (I)
150. 平沢正信 (気象庁・予報): 中部日本の熱的低気圧と地形および各種気象要素との関係
151. 阿部成雄・遠峰菊郎 (防衛大): 日高下風の統計による研究
152. 阿部成雄・遠峰菊郎 (防衛大): 日高下風の数値解析
153. 吉野勝美 (全日空): 山岳波による Severe Down Draught
154. 小元敬男 (大阪府大・農): 台風に伴うたつ巻の研究 (3) 気候学的特性
155. 小元敬男 (大阪府大・農)・文字信貴・林 泰一 (京大・防災研): 昭和56年6月29日九州北部に発生したダウンバースト現象
156. 文字信貴・光田 寧 (京大・防災研): 渦の回転に関する実験

第2会場 境界層

座長 蒲 生 稔

240. 塚本 修・光田 寧 (京大・防災研): 赤外線湿度計を用いた水蒸気輸送量の直接測定
241. 山本龍三郎 (京大・理)・光田 寧・文字信貴・塚本 修・林 泰一・片岡 毅 (京大・防災研)・村山信彦 (気研・応用)・花房龍男・藤谷徳之助 (気研・物理): 乱流エネルギーの発生と伝播 (I) 一観測の概要と予備的結果一
242. 藤谷徳之助・花房龍男 (気研・物理): 乱流エネルギーの発生と伝播 (II)
243. 林 正康・横山長之 (公資研): ソーダによる大気境界層の観測 その9
244. 柳沢善次・石原正仁 (気研・台風): ドップラーレーダによる下層風の観測
245. 小林俊一・石川信敬 (北大・低温研)・大畑哲夫 (名大・水圏研): 南極みずほ基地におけるブリザ

ードの観測 (POLEX-South)

246. 甲斐憲次 (筑波大・水理セ): 台風 8115 号通過時における乱流変動量および気象要素の変化について (2)
247. 花房龍男・藤谷徳之助 (気研・物理): 乱流統計量の高度と安定度による変化 (III)
248. 千葉 修・菊地時夫 (高知大・理): 風速鉛直成分の歪度 (Skewness) の半実験式について
249. 内藤玄一 (国立防災センター): 海上接地層における乱流のスケールと軸の勾配
250. 木村竜治・三沢信彦 (東大・海洋研)・柳沢嘉親 (川口工業高): 対流混合層の流体実験
251. 真木太一 (農技研・気象科): 風洞内防風網の空気力学的特性について
252. 根本 茂・根田紀子 (お茶大・理): 大気境界層内の乱流の実験的研究 (I)
253. 加藤真規子 (気研・物理): 粗度要素による乱流境界層の基礎的研究 (風洞実験)

第3会場 エアロゾル

座長 中 谷 茂

339. 太田幸雄・大喜多敏一 (北大・工): 大気中の純炭素粒子および有機炭素粒子濃度の測定
340. 根本 修・成瀬 弘・矢野 直 (気研・応用): 赤外分光計によるエアロゾルの定量分析
341. 岡田菊夫 (名大・水圏研): 水透折とシャドウイングによる個々のエアロゾルの性状に関する測定 (II)
342. 中谷 茂 (電総研)・関川公成 (東理大): 可視域から微小粒径域までのエアロゾル粒径分布の自動測定とその特性
343. 倉田隆喜・鈴木利孝・角皆静男 (北大・水産): 冬季洋上をわたるエアロゾル中の主成分と長寿命ラドン娘核種
344. 高橋忠司・北川信一郎 (埼玉大)・池上三和子・金沢五寿雄 (気研・高物)・三崎方郎 (気象大)・関川公成・増田純夫 (東理大・理)・中谷 茂 (電総研)・首藤克彦・児島 紘 (東理大・理工)・角田智良 (環境アセス): 浦和におけるエアロゾルの変動について—1977~79年の測定結果より—
345. 伊藤朋之 (気研・物理): 南極大気中のエアロゾルの起源に関する研究 (4)
346. 伊藤朋之 (気研・物理): 南極大気中のサブミクロンエアロゾルの粒径分布について

347. 小野 晃 (名大・水圏研): エベレストの sulfate 粒子
348. 田端 功・高橋克巳・穂田 巖・岡田芳隆・内藤 恵吉 (気研・衛星): ライダーによる 成層圏エーロゾルの観測 (2)
349. 岩坂泰信・林田佐智子 (名大・水圏研): 成層圏 エアロゾル層の偏光特性の観測 (I)
350. 小林愛樹智・岩坂泰信 (名大・水圏研): 成層圏 エアロゾルと NH₃ ガスとの相互作用 (II)

大会第3日 (5月28日) 13時30分~17時00分

第1会場 中小規模現象

座長 吉住 禎 夫

157. 杉浦 茂・古川武彦・岡村博文・塚田 清 (気研・台風): 台風8124に伴う大雨 (1) — シャーラインと大雨 —
158. 古川武彦・杉浦 茂・岡村博文・塚田 清 (気研・台風): 台風8124に伴う大雨 (2) — 気圧の異常下降 (dip) —
159. 柳沢善次 (気研・台風)・榊原 均 (気研・予報)・石原正仁 (気研・台風): 台風8124に伴う大雨 (3) — ドップラーレーダーによる中規模解析 —
160. 柳沢善次 (気研・台風)・榊原 均 (気研・予報)・石原正仁 (気研・台風): 台風8124に伴う大雨 (4) — ドップラーレーダーによる大雨の鉛直構造 —
161. 立平良三 (気象庁・予報): 温低化しつつある台風に伴う豪雨 (台風8124号の場合)
162. 近野好文 (気象協会・前橋): 台風15号 (8115) による群馬県西部の大雨
163. 谷治正孝 (横浜国大・教育): 台風8115号の上陸・北上と地上風系
164. 秋山孝子 (気研・予報): 長続した Cb cluster, I — 南・北強風帯 (前線帯) とじょう乱 —
165. 秋山孝子 (気研・予報): 長続した Cb cluster, II — 成層状態と熱・水収支 —
166. 櫃間道夫 (気象庁・予報): 本州南岸沖を西進して発達する中間規模の雲システム (続報)
167. 加藤政勝 (衛星センター): 非断熱6層フェインメッシュ・モデルによる中間規模じょう乱の数値実験
168. 坂田俊夫 (気象衛星センター): 積雲対流をともなうじょう乱の構造について — 一般場が水蒸気の南北傾度をもつ場合 —
169. 後町幸雄 (京大・防災研): 鈴鹿山脈周辺の大雨の特性 (7)

170. 西山芳明 (都立大): 関東地方の大雨分布について

第2会場 境界層

座長 安達 隆 史

254. 島貫 陸 (東京学芸大): 大気境界層の時間高度 2次元データの解析 (1)
255. 近藤純正・三浦 章 (東北大・理): 1979年5月の西太平洋の海面熱収支解析 (II)
256. 水間満郎・岩本智之 (京大・原子炉): 熱帯境界層の風の鉛直構造 (MONEX パイボール観測)
257. 鈴木彌幸・戸矢時義・村山信彦 (気研・応用)・城松 幸・天吹文太郎・武田尚之・梶原明仁・森本邦彦・山本二郎・篠原吉雄 (神戸気洋)・寺田仁一郎・平野邦夫 (大阪管区)・藤本雅裕 (気象協会): 瀬戸内海における夏の熱と水蒸気のフラックスの観測
258. 近藤純正 (東北大・理): 複雑地形における夜間冷却 — 研究の指針
259. 森洋介ほか異常冷却研究グループ (東北大・理; 宮教育大): 山地における夜間冷却
260. 谷口 恭・菊地勝弘・播磨屋敏生・真木雅之 (北大・理)・平松 親 (北大・環境): 寒冷地におけるソーダによる冷却過程の観測
261. 真木雅之・播磨屋敏生・菊地勝弘・谷口 恭 (北大・理)・平松 親 (北大・環境): 盆地における冷却過程 (II)

応用気象

座長 伊藤 久 雄

262. 真鍋大覚 (九大・工): 鶏鳴の早晚と上空気温の高低
263. 真鍋大覚 (九大・工): 貝塚の年代から見た有明海干潟の南下情況
264. 平松 親 (北大・環境研): 最近15年間の札幌の天気を中心とした天気図解析 — 高校地学実習の試

みー

265. 大和田道雄 (愛教大・地理)・細野正俊 (稲沢市立高御堂小)・神谷俊彦 (愛教大・院): 愛知県尾張地方に吹走する局地風「伊吹おろし」と気象教育について
266. 土屋 清 (宇宙開発事業団)・小久保勝昭 (埼玉県東松山市立松山中): 地域開発による小気象の調査と環境教育
267. 播磨屋敏生・菊地勝弘 (北大・理)・堀江成人 (北大・環境): 北海道有珠山における泥流発生にかかわる降雨特性 (II)

第3会場 大気電気

座長 三崎方郎

351. 遊馬芳雄・菊地勝弘 (北大・理): イオン捕捉による降水粒子帯電の数値実験
352. 藤吉康志 (北大・低温研): 強電場下における雪片の分裂と破碎の観察
353. 舟木数樹・竹内慎一 (埼玉大・工): 電界変化測定による落雷の特性—南関東における1981年夏期観測—
354. 舟木数樹・高山勝見 (埼玉大・工): 電界変化測定による雲放電の特性—南関東における1981年夏期観測—
355. 仲野 賛・竹内利雄・河崎善一郎・高木伸之 (名大・空電研): 帰還雷撃速度の測定

大気化学

座長 伏見克彦

356. 岩坂泰信・寺井久慈・村林 成・小林愛樹智 (名大・水圏研): 対流圏・成層圏大気中の N_2O 濃度測定
357. 村松久史・牧野行雄・広田道夫・佐々木徹 (気研・高物) 成層圏汚染 (オゾン層の破壊) に関する研究 (8) 一次元モデルによる微量成分の分布の計算
358. 川平浩二 (京大・理): プラネタリー波によるオゾン変動の研究 (II)—上部成層圏における温度波と帯状平均オゾン—
359. 田中正之・中澤高清・青木周司 (東北大・理): 大気中の二酸化炭素濃度の測定IV
360. 伏見克彦 (気研・地球化学): 筑波における地表付近大気中の二酸化炭素含量
361. 井上久幸・伏見克彦・杉村行勇 (気研・地球化学): 筑波における地上付近の大気中二酸化炭素の炭素安定同位体比
362. 廣瀬勝己・葛城幸雄・杉村行勇 (気研・地球化学): 筑波における大気・降水中のストロンチウム-90とプルトニウムの含量
363. 土器屋由紀子・広瀬勝己・杉村行勇 (気研・地球化学): 筑波の大気浮遊塵中の塩化物
364. 鈴木 歎・杉村行勇 (気研・地球化学): 大気・降水中のセレンとイオウの関係
365. 杉村行勇・広瀬勝己 (気研・地球化学): 大気・降水中のウラン含量について